

西洋事情

二

西洋事情卷之三

福澤諭吉纂輯

英國力
史記

羅馬人初テ英國ニ渡來スルヲテハ此國ニセルテ

ク及ヒゴシクト云ヘル二個ノ大家族有テ國民之

ニ服從セシト云フ羅馬帝セサルカ英國ニ來リシ

ハ紀元前五十五年ノトニテ其後九十年ノ間ハ羅

馬ノ害ヲ蒙ルノナク紀元後四十三年羅馬帝口口

ヂユス師ヲ起シテ英國ヲ征シ四十年ノ間ニ全ク其

土地ヲ押領シタリ
羅馬人此國ヲ押領セシヨリ諸術學ヲ傳ヘ文明ノ
道ヲ開キ國內ニ三十三都府ヲ設ケ各所ニ軍兵ヲ
屯シ街道ヲ作テ諸府及ヒ屯所ノ間ニ往來ノ便ヲ
為シ都府ノ外草昧ノ地モ爾後二百年ノ間ニ漸ク
之ヲ開拓シタリ此時ニ當テ羅馬ノ武威次第ニ衰
微シテ全國獨立ノ姿トハナリタレバ國內互ニ爭
鬪シテ人民ノ苦難ハ却テ羅馬ノ時ヨリモ甚シト
云フ但シ此時代ノ正史ハ後世ニ傳ハラズシテ事
情ヲ詳ニシ難シ紀元四五百年ノ間ニ日耳曼ノ北

方ニサクソント云ヘル人種アリテ英國ニ渡來シ
次第ニ之ヲ押領シタリ此人種ヲアングロサクソ
ント稱セリアングロサクソントハ英國ニ居ルサクトソビ人ノ義ナリ
アングロサクソントハ國人ノ爵位ヲ數等ニ分
テ諸王ハ自カラ天ノ後胤ト稱シ位ヲ血統ニ傳レ
ル相續ス定律ナシ第二等ハ「イ」ト稱シ今ノ諸
侯ノ如シ第三等ハ「セ」ト稱シ第一等ノ支配ヲ
受ク第一等ト第二等トノ爵位ノ差ハ同盟シテ事
ヲ謀ルル第二等ノ者五人ノ同說ヲ以テ第一等ノ
者一人ノ說ニ對スベク又或ハ國法ヲ以テ刑罰ニ

行ハル、ルモ第二等ノ者五人ノ命ヲ以テ第一等ノ者一人ノ命ニ當ルヘシ諸侯以下數等ノ階級アリテ最下等ナルモノハ奴隸ナリ

アングロサクソンノ支配ノ間、英國ノ地ヲ分ツ法ハ第一ヲ諸侯ノ領地ト爲シ其以下ハ百戸ニ分チ又十戸ニ分チ各其主長ヲ立テ領地ニ裁判所ヲ設ケテ政ヲ施シ且其領地ニテ小吏ノ爲セルコトハ善惡トモ領主ヲシテ其責ニ任セシム又此時ニハ賢明智識ノ集會ナルモノ有テ國民ノ爲政府ニ對シテ愁訴歎願スルニハ却テ官途ニ參ル評議官ヨリ

モ權威アリ案ハルニ諸侯及ヒ僧官ノ貴キ者ハ此集會ニ加ハリ又國內ノ諸方ヨリモ名代人ヲ送ルコトナルヘシ國王ハ此集會ノ助ヲ以テ法律ヲ施スト雖氏王位相續ノコトハ國王ノ意ヲ以テ獨斷スルナリ○耶穌教ノ英國ニ入タルハ紀元後百年ノイナリシカ羅馬滅亡ノ後國內混乱シテ此教法全ク中絶シタリ紀元六百年代ノ始ニ至テ再ヒ之ヲ起シ次第ニ開化ニ赴キ以テ今日ニ至レリ

アングロサクソンノ内ソスセキスノ君エムラナルモノ諸酋長ト戰ヒ大ニ勝利ヲ得テ一時之ヲ威

服ニ紀元四百九十一年ノ頃自カラ「ブレトワル」
 ト稱セリブレトワルハ不列顛ノ首長ノ義○「アングロ、サク
 ソン」英國ニ渡來シテ多年ノ間諸方ヲ征服スルキ
 ニ當テ此人種諸處ニ割據シ各獨立ノ勢ヲチセリ
 其獨立國ノ大ナルモノハ「ウェセキス」ソスセキス
 「ケニト」エスセキス「デイラ」イスト「アングリヤ」ノ
 「ス」ヲムビルラ「ンド」是レナリ此七國或ハ興リ或
 ハ衰ヘ互ニ相并吞シテ「ブレト、ワル」ノ位ヲ傳ヘ
 リ之ヲ七國ノ世ト名ツク紀元八百三十年ニ至テ
 「ウ」スセキスノ君「エグマル」トナルモノ遂ニ此位ヲ

得タリ世人之ヲ英國一統ノ始祖ト稱ス
 「エグマル」ト位ニ即ク「ア」建國人初テ入寇セリ是レ
 ヨリ百五十年ノ間屢々建國人ニ侵サレテ國內文明
 ノ進歩天ノカタメ中絶セリ且「アングロ、サクソ」ニ
 ノ君ハ國民ト一和シテ防禦ノ策ヲ設ケス却テ内
 乱ニ時日ヲ費シ建國ノ大敵侵入スレハ僅ニ薄弱
 ノ兵ヲ出シテ防禦セシムルノミ其後「サクソ」王
 「アゼルスタ」及「エドモント」ノ世ニ至リ專テ外
 敵ヲ防キ内亂ヲ鎮靜スルノ策略ヲ施シタルニ建
 人ノ勢益盛ニシテ全英國ヲ掠亂シ「ホムブル」河北

ノ地ニ割據シテ其辺傍ニ多ク噠人ノ種族ヲ遺シ
タリ紀元一千零十七年噠人盡ク英國ヲ押領シタ
レ氏二十四年ヲ經テ一千零四十一年ニ至リアン
グロ、サクソンノ君エドワルト之ヲ恢復シテ國位
ニ即キタリ然レ氏エドワルトノ在位ハ唯名義ノ
ミニテ英國ノ土地ハ其時ノ六大諸侯及ヒ噠人英
人ノ酋長ニ分與シテ國王ハ唯空位ヲ守ヒリ一千
零六十六年エドワルト王死シテ子ナシ初メ王ノ
在位中ニウスマセキス侯ハロルド竊ニ謀反ヲ企テ
リ王、之ヲ察シテ死ニ臨ミ遺言シテ王ノ親族ハル

マシチ侯キルレムノ立テ、嗣子ト為シタリシカ
王ノ死スルニ及テハロルド果シテ王位ヲ篡テ自
立セリキルレム乃チノルマシチ
ノルマシチハ佛
蘭西ノ舊地ナリ
ヨリ大兵ヲ舉テ英國ヲ攻メ一千零六十六年ハス
チシダスノ決戦ニテ大ニ英ノ師ヲ敗リハロルド
ヲ殺シテ英國王ノ位ニ即ケリ之ヲ「ハルマシ」ノ一
統ト稱シ「アングロ、ソクサシ」ノ家系ハエドワルト
ニテ絶タリ
ハルマシノ一統ハ英國歴史中ノ一大變革ナリ一
統ノ後法律ヲ改メテ王室ノ所領ヲ除クノ外ハ國

内ノ土地ヲ有功ノ武臣六萬人ニ分與シテ世祿ト
 為セリ但シ世祿ノ法ハ「サクソン」ノ世ト異ナルヲ
 ナシ石ノ如ク配分シテ英國ノ地過半ハ「ルマニ」
 ノ武臣ノ采地ト為リタレト尚ラ「サクソン」人及ヒ
 連人ノ酋長ニテ土地ヲ押領セルモノ多シ此酋長
 等ハ或ハ政府ノ法令ヲ憚ラスシテ私ニ其土地ヲ
 保ツモノアリ或ハ政府ニ臣服シ政府ノ免許ヲ得
 テ之ヲ保ツ者アリ○「キルレム」在位ノ終ニ於テハ
 英國ノ人口九、二百萬アリ此時ニ當テ國內北方ノ
 地ハ多ク荒廢シ且「サクソン」ノ世エドワルト王ノ

氏ヨリ「ルマニ」ニ一統ノ兵乱ニ由テ諸州ノ人民過
 半ヲ失ヒタルヲハ諸書ニ記載セリ之ニ由テ考フ
 レハ「キルレム」王一代ノ間ニ凡、三百萬ノ人口ヲ減
 少シタルヘシ
 一千零八十四年「キルレム」死スルハ其次子第二世
 「ロフス」キルレムニ英國ヲ與ヘ長子「ロバート」ハ「ル
マニ」チニ遺シ置キタレハ之ニ其本國ヲ與ヘ第
 三子「マリ」ニハ母ノ遺物ヲ與ヘタリ第二世「キル
レム」在位ノ間ハ記スヘキ大事件ナシ一千百年遊
 獵ノ時流矢ニ中テ死ス是ニ於テ英國ノ王位ハ其

兄ロベルトニ傳フハキ理ナレバ此時ロベルトハ
 遇バレスタイニ 亞細亞州ニ出師セテハ 西南 地ニ在ラサルニ由リ第一ハスリ間ニ築キ行英國王ノ
 位ニ即クヲ得タリ之ヲ第一世ハスリトスハ又
 リ位ニ即テヨリ元トノ「サクソ」王エドガルノ姪
 女マチリダヲ娶テ「サクソ」家ヲ同一ノ系統ニ并
 ケリ○其後ハスリハ師ヲ起シ兄ノ所領ノルマシ
 「サクソ」攻メロベルトノ歸路ヲ要シ迎ヘ戰テ遂ニ之
 ヲ禽ニシ終身獄屋ニ幽閉セリ然レバ「サクソ」王ノ
 ルマシ「サクソ」ヨリ凱陣ヲ海上ニテ唯ニクノ男子漸

死シタルハ兄ニ敵對セシ罪科ノ報ヒト云フハシ
 一千百三十五年第一世ハスリ死シ其姪ステイフェ
 ン立ツ初ノ第一世ハスリノ女子マチルダ「アンジ
 ー」ノ君「ブラン」テ「ジ」ットニ嫁シテ一子ヲ生ミ之
 ヲ第二世ハスリト名ツクステイフェン在位ノ間國
 民ヘ又リニ望メ歸シ之ヲ立テ、國王トセント欲
 スル者多シ且第一世ハスリノタメニハ正統ノ孫
 ナルカ故ニステイフェンモ之ヲ拒ムヲ得ヌ條約
 ヲ結テ死後ニ位ヲ傳ン「ト」ヲ許シタリ一千百五十
 四年ステイフェン死シ第二世ハスリ立ツ第二世ハ

英國ノ王家ヲ「ブラント」トシテ「ジョージ」ト稱ス。第二世ヘ又「リッパ」ハ其本家ノ所領「アンジュー」近傍ノ地ヲ取り佛蘭西全國ノ三分一ハ英國ニ屬セリ。一千八百九十年ヘ又リ死シ其長子リ「チャールド」立ツ。一千八百九十九年リ「チャールド」死シテ子ナシ其弟「ジョン」立ツ。ジョージニ在世ノ間ハ英國ノ政治大ニ荒廢シタリ。此時ニ當テ佛蘭西王「フエリッポ」オー「ギョスタス」英明ノ君ニテ近來英國ニ屬セル土地ヲ恢復シテ再々佛蘭西ノ國版ニ併セタリ。然レモ英國ニ於テハ一千七百七十二年第二世ヘ又リノ時代ヨリ「アイルランド」ヲ征伐シテ

次第ニ之ヲ押領セルカ故ニ佛蘭西ノ地ヲ失フトモ所得ヲ以テ所失ヲ償フニ足ルヘシ。但シ「アイルランド」ヲ全ク制伏シタルハ爾後四百年ノナリ。千二百十九年「ジョン」死シ太子第三世ヘ又リ。年甫テ九歳位ニ即キ王ノ叔父「ベムブローク」侯。政ヲ攝ス。千二百七十二年第三世ヘ又リ死シ太子位ニ即ク之ヲ第一世「ドソルト」トス。○一千零六十六年「ホルマ」ニ一統ヨリ第一世「エドワルド」ノ即位ニ至ルマテノ間ニ記スヘキ事件ノ大略ハ左ノ如シ。「ホルマン」一統ノ後ハ封建世祿ノ法ヲ定メ貴族ハ各土地ヲ

領シテ其領地ノ内ヲ臣下ニ分チ與ヘテ領内ノ政ヲ治メ又右ノ貴族并ニ小祿ト雖臣國王ヨリ直ニ領地ヲ賜ハル者ハ一般ニ集會シテ事ヲ議シ此會議ニテ定タル法律ヲ以テ國中最上ノ權トス故ニ貴族等ハ常ニ國民ト一和シテ其カヲ籍リ王室ニ向テ爭論シ國王ヲシテ獨リ權柄ヲ專ニセシメス千二百十五年ジヨン王在位ノ代ニ至テ「マグナ・チャルタ」ノ大義ト云ヘル法律ヲ定メリ此法律ノ趣旨ハ國王ノ特權ヲ恣ニスル惡弊ヲ防クモノニテ其大意ハ二ヶ条アリ即チ第一ヶ條ハ凡ク國民ニ罪アル代

ハ必ス支配ノ主人ニテ其罪ヲ吟味シ裁判シテ然ル後之ヲ罰スヘシトノナリ此ノ條令後世ニ傳ヘテ時代ニ從ヒ事宜ニ應シ次第ニ變革シテ今日英國ニ行ハル「トライエール、バイ、ジューリ」ノ法トナレリ英國ニテハ裁判役ノ獨斷ニテ罪人ヲ吟味シ判ノ正否ヲ見テ之ヲ議論シ罪人モ其罪ニ伏シ立合ノ處モ其裁判ニ付キ異論ナキニ至テ初テ刑ヲモスルヲ撰キ置キ裁判ノ起ル毎ニ入札ヲ以テ其人數ノ内ヨリ二十四人或ハ十二人ヲ呼出シテ裁判局ニ列坐セシムル此法ヲ「トライエール、バイ、ジューリ」ト云フ但シムル衆國モ同様第二ヶ條ハ國會ノ大議ニテ免許スルニ非サレハ國民ヨリ軍

役ノ代トシテ金ヲ收ム可ラストノナリ此條令
 ハ唯世祿ノ土地ヲ領セル貴族等ノタメニ益アル
 ノミニテ國王私家ノタメニハ不便利ナリ後世ニ
 至テ下院ノ議事官國內收税ノ權柄ヲ執ルノ法
 ハ此條令ニ基キタルナリ○此法律ヲ定テヨリ
 王室ト貴族ト互ニ權ヲ爭ヒ貴族ノ勢次第ニ強盛
 ナリ第三世ヘヌリノ代ニ至リレイセストルノ
 君モシテフルトナルモノ一時英國ヲ支配シ千二百
 六十五年諸方ノ名代人ヲ會シテ國事ヲ議シタル
 ナリ即チ英國議事院ノ始ナリ○又第二世ニ
 君モシテフルトナルモノ一時英國ヲ支配シ千二百

時代ヨリ政府ト寺院トノ間ニ爭論ヲ生セ
 リ其事柄ハ第一寺院ノ僧官ニテ俗事ヲ取扱フ
 ニ付テ政府ニテハ俗事ヲ取扱フノ權ハ王室ニ
 アル故ニ王室ヨリ其僧官ヲ命スベシト云ヒ寺院
 ニテハ此權ハ法皇ヨリ出タルモノナルカ故ニ寺
 法ニ由テ自カラ之ヲ命スヘシト云フ第二衆僧ニ
 罪アルハ政府ニテハ寺院ヲ支配スル權アルカ故
 ニ國法ニ從テ之ヲ罰スヘシト云ヒ寺院ニテハ寺
 法ニ從テ之ヲ裁判スヘシト云フステイブン王ハ
 第一條僧官ヲ命スルノ權ヲ寺院ニ許シタレバ第

二世スリ王ハ痛ク之ヲ拒ミ寺院ノ特權ヲ奪テ
舊法ニ復シタリ爾後又寺院ヨリ異論ヲ唱ヘ其勢
次第ニ盛ニシテ政府ノ權ヲ壓倒スルニ至リタレ
ト第三世スリノ世ニ及テ在位ノ長キ間ニ漸ク
寺院ノ權ヲ削キタリ○第一世エドワルト在位ノ
間ニ國內ノ政治次第ニ整ヒ國政會議ノ様子恰モ
現今議事院ノ風アリ即チ國內ノ貴族ハ自カテ會
議ニ出席シ貴族以下ニテモ采地ヲ領スルモノハ
數人ノ内ヨリ名代人ヲ出シテ會席ニ列坐セシメ
兩局相別ル、今ノ上院下院ノ如シ然レド此會

議ノ人々年月ヲ經ルニ從テ次第ニ權威ヲ張リ國
内一般ノ事務ニハ注意セスシテ徒ニ國王ノ命ヲ
拒ミ且當時ノ法ニテ貴族ノ領地ハ世々子孫ニ傳
ハ易ハルヲナクシテ陪臣ハ新ニ世祿ヲ與フル
ヲ禁スルカ故ニ貴族ノ領地ハ益加増ニ世祿陪臣
ノ數ハ益減セリ○第一世エドワルトノ世ニ於テ
ハ寺院ノ俗權ヲ削キタレト此事ニ自テ爭論ヲ起
ス、トナシ外國交際ニ於テハ其勢甚盛ナリ又
ルスヲ征服シ蘇格蘭ヲ攻テ殆ント之ヲ服從モシ
ノタリ、ハゴツトラゴ此時ヨリ英國東方ノ地ナリ從來獨立國ニ

西洋事情

西洋事情

千三百零七年第一世エドワルト死シ太子位ニ即
 ク之ヲ第二世エドワルトトス第二世エドワルト
 ハ父ノ業ヲ繼クヲ能ハス蘇格蘭ト戦テ敗劔シ其
 後常ニ國內ノ貴族ト不和ニシテ遂ニ千三百二十
 七年議事院ノ評議ニテ王位ヲ廢セラレ幽室中ニ
 死シタリ其子第三世エドワルト位ニ即ク年甫テ
 十四歳ナリ第三世エドワルト在位ノ間ニ起タル
 大事件ハ佛蘭西トノ戦争ナリ其發端ハ佛蘭西國
 王死シテ嗣子ナシ其血縁ノ者ヲ詮鑿スルニエド

ワルトノ母氏「イサベラ」佛ヨリ英ニ最モ近親ニテ
 佛蘭西國王ノ位ヲ繼クヘキ理ナレバ佛國ノ法律
 ニ於テ國位ニ即クモノハ必ス男子ニ限レハカ故
 ニイサベラヲ立ラス是ニ於テエドワルト王議論
 ヲ起シ依令テ國法ニテ婦人ノ身ヲ以テハ王位ヲ
 繼ク可クサルトセ其所生ノ男子ヲエハ自カラ佛
 蘭西國ニ君臨スルノ理アリトテ兵ヲ起セリ是ヨ
 リ先ニ英國ノ兵ハ蘇格蘭ト戦争中ナレバ佛蘭西
 ノ事起ルニ及テ國人皆蘇格蘭ヲ棄テ佛ニ向ル
 千三百三十七年ヨリ千三百七十四年ニ至ルマテ

三十七年ノ間戦争シテ屢勝利ヲ得遂ニ佛蘭西王
ヲ生捕リ其國內ヲ掠亂シテ到底英國ニ得ル
所ノ利ハポルトガルニカレリノ地ヲ押領シ
ルノミ
第三世エドワルトノ世ニ於テハ士風一而目ヲ致
メテ次第ニ文明ニ進ミ又後來ハルマニ人トヤク
クン人トノ間ハ動モスレハ不和ナリシカトモ佛
蘭西トノ戦争起テヨリ一般ニ人氣ヲ引立テ却テ
國內一致シ初テ大英一國ノ風儀ヲ成シサクク
ノ言語ニ次第ニ變化シテ英語トナリ文學大ニ進

ミタリ
千三百四十九年惡疫大ニ流行シテ國內ノ人口過
半ヲ亡クヨレヨリ諸役夫職人ノ賃銀騰貴セシニ
舟キ官府ヨリ命ヲ出シ古來ノ割合ヲ以テ賃銀ヲ
取ラシメントシタレバ人心之ニ服セス依テ又嚴
法ヲ設ケ賃銀ノ高下ハ自然ニ任セテ官府ヨリ妨
ルイナシト雖モ都テ六十歳以下身體強壯ニシテ
活計ナクモノハ他人ノ求ニ應ジテ奉公セザルヲ
得ス若シ之ヲ拒ムルハ罪ニ行テ且奉公ノ年期中
出奔シテ他國ニ遁ルモノアレハ直ニ之ヲ召

捕へ其前額ニ奔ノ字ノ焼印ヲ押セリ又此時ニ於
テハ佛蘭西トノ戦争ニ由テ軍費足ラサルニ付キ
其後通用金ノ位ヲ低クセシカ故ニ物價騰貴ニ從
テハ職人ノ賃銀モ増スヘキ筈ナレド亦之ヲ禁シ
徒ニ官府ノ命ヲ以テ物價ヲ定メ其弊ヲ救ハント
シタレド不便ヲ以テ不便ヲ救フノ策ニテ時勢ニ
益アルコトナシコレヨリシテ次第ニ國內ノ人心ヲ
失ク第三世エドワルト在位ノ間ハ無事ナリシカ
其嗣子第二世リチャルドノ世ニ至テ内亂ヲ生シ千
三百九十一年王ノ叔父ランカマトハ君ヘスリ

兵ヲ擧ケリチャルトヲ廢シテ自立ス之ヲ第四世ヘ
スリトス此君ハ生来才カアレド寡立ノ後國內常
ニ穩静トラス但シ議事堂ノ法ヲ脩メ上下兩院ヲ
一和セシメタルハ在位中ノ大功ナリ第四世ヘス
リ死シ太子立ツ之ヲ第五世ヘスリトス第五世ヘ
スリ王位ニ即テヨリ祖先ノ志ヲ繼テ佛蘭西ノ國
位ヲ無シトシ兵ヲ起シテ之ヲ攻メ多年ノ間戦争
シテ第六世ヘスリノ世ニ至テハ大ニ佛ノ兵ニ克
テ殆シト其國ヲ押領セントスルノ勢ナリシカ本
國ノ内亂ニ由テ遂ニ兵ヲ引キタリ○初ノ第四世

一、スリ、死スル其嗣子アレバヨハクノ君ヲ
 二、ト國位ニ即クヘキ正統ナリトテ兵ヲ舉ケテ
 三、カマストル家ト戦ヒ四十年ノ間互ニ勝敗アリ
 四、世ハスリハラニカストルヨリ起テ以テ第四
 五、世ヨリ第六世ヘスリニ至ルテテレンカス
 六、家ノ世千四百八十五年ハスリ、チュートル
 七、起テランカストルノ家系ヲ續キヨルク家ノ女ヲ
 八、娶テ國內一統ニ歸ス之ヲ第七世ヘスリトス○第
 九、七世ハスリノ世ニ於テ記スヘキ大事件ハ封建世
 十、祿・貴族ヲ壓伏シテ其權ヲ削ラル一條ナリ英國
 十一、舊來ノ風習ニテ國內ノ大貴族多ク家來ヲ養ヒ私

一、ニ攻伐防禦ノ備ヲナシテ國內ニ威權ヲ張り他ト
 二、ニ爭論ノ一アレハ家來ハ各其君ヲ助ケ裁判所ニ出
 三、テ之ヲ辨論スルノミナラス甚シキニ至テハ國法
 四、ヲ犯ストモ君ノ威權ヲ藉リ罪ヲ遁ルヘキヲ知テ
 五、君ノ仇トスル所ノ人ヲ襲撃スルヲアリ或ハ又此
 六、家來等君ノ手ヲ離レテ浪人スルヲアレハ他ニ活
 七、計ヲ路ナク強盜ヲ以テ事トナシ英國内乱ノ間ハ
 八、其乱暴殆ント極度ニ至レリヘスリ王位ニ即テヨ
 九、リ意ヲ決シテ此惡弊ヲ除クニ欲シ種々其處置
 十、ヲ施シタルニ遂ニ又戰爭トナリ國內ノ貴族ト戦

テ大ニ克チ一時ニ其權柄ヲ奪ヒ又隨テ其家ヲ没
 入シ大貴族ノ滅ルモ其甚多シコレヨリシテ貴族
 ノ勢威全ク地ニ墜チ且其風俗次第ニ游惰ニ流レ
 其領地ノ者ヲ武役ニ用ユル代トシテ領内ヨリ金
 ヲ出サシムルニ至テ卑賤ノ小民自カラ武事ヲ廢
 シテ工業ヲ勉メ王室ノ法律ヲ尊奉セリ都テヘ
 リ王ノ政ハ強大ヲ制壓スルノ趣旨ナレ氏隨テ又
 弱小ナル下民ヲ撫育シテ其所ヲ得セシムルカ故
 ニ貴族ヲ滅シテ徒ニ王室ノ特權ヲ張リタルニハ
 非カリナリ第七世ヘヌリ死シテ太子立ツ之ヲ第

八世ヘヌリトス○第八世ヘヌリ故アリテ其妃ヲ
 離別セントシテ羅馬法皇ノ許ヲ得ヌ依テ法皇ト
 信ヲ絶チ自カラ諸寺院ノ統領ト稱セリコレヨリ
 先キ日耳曼及ヒ瑞^ル西ニ於テ^ルプロテスタント^ト西洋
 人ノ唱ル耶穌正教ナルモノニテ^ル宗門起テ英國
 天主教ヲ改宗シタルモノト云フノ^ル人民之ニ歸依スルモノ多ク寺院ノ學僧モ竊ニ
 之ヲ信仰セシカハ此度國王ト羅馬法皇ト不和ヲ
 生スルニ至テ矇昧ノ小民ハ益羅馬ノ天主教ヲ惡
 ミ且又強暴ナルモノハ天主教ノ寺ヲ毀テ財物ヲ
 掠奪スルヲ悅ヒ之カ為^ルプロテスタントノ宗門次

第二國中ニ弘マリタリ國王モ從來此ノ宗有テ信
スルニハ非サレモ自カラ寺院ノ統領ト稱シテ羅
馬ニ敵對セルカ故ニ止ムヲ得スシテ國人ノ改宗
スルヲ許セリ千五百四十七年第八世ハスリ死シ
テ其一子エドワルト立ツ之ヲ第六世エドワルト
トス年甫テ九歳ナリ○エトワルトハ大ニプロテ
スタン^トノ宗門ニ歸依シ國內ノ教化次第ニ盛ナ
リシカ千五百五十三年不幸短命ニシテ死ス年十
五歳ナリ死後其姉マリ立テ女王トナル○此女王
ハ專ラ天主教ヲ信シテプロテスタン^トノ宗ノ者ヲ

痛ク追捕シ國內宗門ノ為ニ命ヲ落スモノ二百人
餘ナリト云フ即位ノ後西班牙王第二世ヒリッスノ
配偶トナリタレモ千五百五十八年死シテ
異腹ノ妹エリサベツト立ツエリサベツトハ元來
ロテスタン^トノ教ヲ奉スレモ其宗派ノ人ノ跋扈
スルヲ嫌ヒ強テ其宗門ニ左祖セサルカ故ニ天主
教ノ人モ憤懣スルヲクニ却テ互ニ一致セリ
○封建世祿ノ法次第ニ廢止セシヨリ國內ニ於テ
土地ヲ所持セル者ハ新地ヲ開拓ニテ其領分ヲ弘
ムルノ望ヲ絶テ專ラ其身一代ノ間ニ蓄財スル

ノミヲ勉ムカ故ニ開墾スヘキ土地モ荒蕪ニ屬シ之カ為小民産業ヲ失テ他國ノ流移スルモ多シ又亞米利加ノ金坑ヲ發見セシ以來通用金ノ位非常ニ下落シ隨テ諸品物ノ價俄ニ騰貴シテ諸民困窮セリ固ヨリ物價ノ騰貴スルニ準シテ雇賃銀モ増シタル比物價ノ割合ニ應セテ論穩カラサルカ故ニ政府ヨリ屢法令ヲ出シ遂ニ千六百零二年救貧ノ大新法ヲ立タリ○エリサットノ世ニ於テハ英國ノ武威内外ニ輝キ阿爾蘭モ四百年前初テ征服シタル比此ノ時ニ至テ其服

從スルヲ益固ク且又國人航海ノ術學モ一時ニ開ケテ大ニ進歩シタリ千六百零三年エリサット死シテ子ノニ是ニ於テ蘇格蘭ノ王第六世ゼームス骨肉ノ故ヲ以テ英國王ノ位ヲ嗣キ改テ第一世ゼームスト稱セリコレヨリ兩國一統ニ歸シ國ヲ大不列顛ト名ケ阿爾蘭ヲ併セテ合衆王國ト稱ス○エリサットノ王在位ノ間ハ内外無事ニシテ國民太平ニ德澤ヲ蒙リ亞米利加ノ地方ヲ開拓シテ英國ノ所領トナシタルモコレノ時ヲ以テ始トス但シ王ノ為人器量偏小ニシテ私欲多シ常ニ議事院ト權柄ヲ

争、在位二十四年、間其爭論止、ハ、ナシ、千六百
 二十五年死、シテ太子立ツ之ヲ第一世「チャールレスト
 ス」ノ時ニ當テ議事院ノ威權次第ニ盛大トナリ
 諸州ヨリ名代人ヲ出シテ國政ヲ會議ニ上下各其
 所ヲ得、衆庶富饒、至リタレ、國王ハ議事院ノ盛
 ナルヲ忌ミ其權柄ヲ奪テ王室ノ威ヲ張ラニト欲
 シ、即位後四年ノ間ニ三度議事院ノ會議ヲ設ケシ
 ヲ爾後、之ヲ廢ヒリコレヨリ物論蜂起シ之ニ加
 フルニ國內宗旨論、テ各處ニ枝黨ヲ結ビ互ニ相
 争鬪シテ殆ニト間日ナシ、是ニ於テ止ム、テ得ス

議事院ヲ再興シタレ、遂ニ國乱ヲ救フ、能ハス
 千六百四十九年議事院ノ定議ニテ國王ノ位ヲ廢
 シテ國ヲ令衆政治トナシ、コロマエナル者國議
 總督ノ名ヲ以テ政權ヲ專ラニシ、内外ト戰テ屢功
 アリ、千六百五十一年、コロマエ死シ、其子總督ノ
 職ヲ辞スルニ及テ、千六百六十年國人共ニ第一世
 「チャールレスト」ノ子ヲ奉シテ國王トナス之ヲ第二世「
 一」レスト名ツク、千六百八十五年第二世「チャール
 ス」死シ、テ其弟立ツ之ヲ第二世「ジェームスト」
 「ス」位ニ即テヨリ、父兄ノ遺風ニ從テ天主教ヲ奉信

シ他宗ニ歸依スルモノヲ惡ム一甚シク之ニ由
 人心ヲ失ヒ國內又亂ルゼイハスニ女一男ヲ生
 長女ヲマリト云ヒ荷蘭國合衆政治ノ大統領ヨラ
 ニ一侯井ルレムニ嫁ハ次女ヲアテナト云ヒ男子
 ハ第三世ゼイハスナレヒ幼少ナリ此時ニ於テ國
 内ノゴロテスタシト宗ニ從フモノハ皆國王ノ忌
 諱ニ觸レ自カラ其生ヲ安ヌルヲ能ハサルヲ以テ
 多クハ荷蘭ニ出奔シテ竊ニヨラニ一侯井ルレム
 ニ依頼ス井ルレム乃チゴロテスタシト宗ノ人ヲ集
 メテ兵ヲ擧ケ英國ニ向テ其舅氏ゼイハスヲ攻メ

シニ國人固ヨリ王ノ暴政ヲ厭ヒシトナレハ敵ヲ
 防クモノトテハ一人モナク國王ノ平生ヨリ積ニ
 ニヒシ兵卒等モ戈ヲ倒ニシテ後ヲ伐ツノ勢ニテ
 王ハ遂ニ佛蘭西ニ出奔セリ于時十六百八十八年
 ナリ是ニ於テ議事院ヨリ國內ニ布告シゼイハス
 王ノ位ヲ廢シ井ルレムヲ奉シテ英國王トナシ第
 三世井ルレムト稱ス井ルレムハ元ト荷蘭合衆政
 治ノ大統領ニテ此度英國王
 兩國一君ノ姿ナリ井ルレムハ王位ニ即テヨリ國
 法ヲ寬ニシ議事院ノ權ヲ重クシ王室ノ特權ヲ張
 ルノ舊弊ヲ除キ宗門ノ議論ヲ鎮靜シ五十年来ノ

國亂ヲ一掃シテ英國ノ歴史更ニ面目ヲ新ニセ
 井ルレム在位ノ間佛蘭西王第十四世ロイス大
 教ヲ奉信シテプロテスタント宗ノ人ヲ追捕スル
 嚴刻ナルニ付キ英人ノ同宗ナルモノハ遙ニ之ヲ
 憤リ且佛蘭西王元トノ英國王ジョージ一
 助クテ其家ヲ恢復セントスルコトニ付キ遂ニ英佛
 兩國ノ不和ノ起シテ戦争ニ及ヘリ○井ルレム王
 ノ世ハ國內ノ貿易次第ニ繁盛シ人口益増加ス百
 年前ハ龍動英國首府ノ人口二十五萬ナリシニ當時ハ
 之ニ一陪シテ五十萬餘ニ至レリ○千七百零二年

第三世キレレム死シテ子ナシ王妃マリアノ妹アン

立ッ千七百十四年死シテ子ナシ初ノ井ルレム

在世ノ時議事院トノ商議ニテ法ヲ立テ第二世ゼ

一族及ヒ其他天主教ヲ奉スルモノハ王

室血統ノ子孫ト雖モ後來國王ノ位ニ昇ルヲ禁

ント擔ヘリ此度女王死シテ嗣子ナシ及テ

宗門ニ歸依スル王族ヲ探索ス

第一世ゼージムスノ曾孫ハノトク日耳曼列國ノ名

君ジョージナルモノ最モ近戚ナルヲ以テ乃チ之

迎ヘテ王位ニ即カシ第一世ジョージト名ク但

西洋事情 卷之三

シ第一世ビームス即位ヨリ以来王室ノ姓ヲ「ス
 ヲルト」家ト稱セシカ第一世ヨリ後ハ改テ
 「ハノ」トクル家ト唱ヘリ千七百二十七年第一世
 「ジ」死シテ太子位ニ即ク之ヲ第二世「ジョー」シトス
 王ノ宰相「ハムルト、ワルボール」ルモノ第一世
 「ジ」ノ世ヨリ力ヲ盡シテ王室ヲ補佐シ蘇格蘭ノ
 叛賊ヲ平ケ蘇格蘭ノ叛賊トハ「ス」トク
ル家ヲ恢復ヒンルハ「ス」トクノ人心ヲ
 鎮靜シ第二世「ジョー」シ即位以來十二年ノ間國內太
 平無事ニシテ諸民其德澤ヲ被ルハ專ラ宰相ノ力
 ナリ千七百三十九年ニ至テ英國ノ貿易商人等西

班牙人カ亞米利加ノ地方ニ於テ貿易ノ利ヲ專ラ
 ニスルヲ憤リ遂ニ兩國ノ怨ヲ結テ戰爭ニ及ヒシ
 カ平生不逞ノ輩此釁ニ集シテ宰相ヲ讒シ遂ニ其
 位ヲ黜クタリ○千六百六十八年ノ騷亂ニテ第二
 世「ビームス」ヲ放逐セシヨリ國內ノ人民王ノ不幸
 ノ追想シテ竊ニ徒黨ヲ結ヒ「ス」トクノ家ヲ再興
 シテ舊時ノ政治ニ復ヒント欲スルモノアリ且佛
 蘭西「ラヒビームス」ノ一族ヲ扶助シテ常ニ英國
 ノ釁ヲ窺ヒシカ此度西班牙トノ戰爭ニ引續キ國
 内穩カナラサルヲ好機會トシ千七百四十五年第

二世ビーハスノ孫エドワルトナムモノ佛蘭西ヨ
 リ起テ蘇格蘭西北ノ地ニ渡リ其土地ノ貴族ヲ集
 ノテ兵ヲ舉クシニ從來其家名ヲ追慕スル輩蜂起
 雲集シテ之ニ應シ一時ニ兵勢ヲ得漸ク南シテ英
 國ノ本領ニ攻入りタレモ本領ノ人ハ之ニ興ニス
 ルモ少ク且佛蘭西ノ應援ヲキテ以テ遂ニ復テ
 蘇格蘭ニ引キコロトゲンニ於テ官軍ト戦ヒ遂ニ
 敗走シタリ從來蘇格蘭ノ貴族ハ世祿ナリシカ今
 般ノ騷乱平定シテ後政府ヨリ其爵祿ヲ奪ヒ痛ク
 之ヲ壓伏シコレヨリ國內擾亂ノ患ナシ蘇格蘭兵

乱ノ後千七百四十八年英佛其他歐羅巴諸國互ニ
 和睦ノ結ヒ日耳曼ノタクキスラヤツノルト云ヘル
 所ニテ同盟シタレモコノ和約遂ニ益ナシ此時ニ
 於テ英國海軍ノ勢名次第ニ盛ニシテ遂ニ歐羅巴
 諸國ニ冠タルニ至リシカハ佛蘭西ノ其海軍ノ威
 權ノ英ニ奪ハレタルヲ憤リ之ヲ恢復シテ海外
 所領ヲ廣クセシト欲シコレヨリ英佛ノ間ニ隙ヲ
 生シ又同時ニ普魯士ト墺地利トノ戰爭モ未ク取
 ラス歐羅巴各國ノ事體紛擾或ハ合縱シテ英ヲ攻
 ヲ或ハ連衡シテ佛ヲ敗リ遂ニ全州ノ大騷乱トナ

リ千七百五十六年ヨリ七年ヲ經テ漸ク平和ニ復
 シタリ世人之ヲ七年ノ師ト唱フ千七百六十年大
 戦争ノ央ニシテ第二世ジョージ死シ其孫第三世ジョ
 ージ立ツ戦争ノ初ヨリ英國ノ宰相チャップマン、ピット
 ナルモノ文武兼備ノ才徳ヲ以テ内外ノ事ヲ處置
 シ英國ノ兵常ニ勝利ヲ得テ其威名世界中ニ耀
 シカ第三世ジョージ位ニ即クニ至ラゴノ宰相ヲ信
 用スルヲ能ハス遂ニ之ヲ退ケ他人ヲ擧テ其職ニ
 代ハラシメテヨリ英國ノ武威俄ニ衰微シラ七
 年ノ師ノ終ニ至リ各國ト和約ヲ結テ英國ハ北亞

米利加ノカナダヲ取レリ○七年ノ師平定シテ後
 ハ海外所領ノ地ニ於テ人民次第ニ繁殖シ亞米利
 加ニ在ル領地ノ内カナダヲ除キ其余ノ地方ヲ分
 テ十三州トナシ其人口二百五十萬ニ及リ其外
 東印度並ニ西印度諸島ノ地ニ次第ニ開拓シテ富
 饒トナレリ○第一世ジョージノ世ヨリ以來英國内
 ニハ記スヘキ大事件ナシ連年五穀豐熟シテ下民
 安樂ヲ極ノリ千七百十五年ヨリ千七百六十五年
 ニ至ルマデ五十年ノ間ニ凶年僅ニ三次小麥ノ價
 千六百年代ニ比スレハ半價ヨリ少シク貴キニ

人口ハ甚ク増加セシキ七百二十年國內ノ人員五百三十萬ナリシモノ十七百六十年ニ至テ六百四十萬人トナレリ故ニ職人役夫ハ日傭錢ヲ以テ自カラ富ヲ成シ更ニ苦情ヲ訴ルモノナク國內一般ノ風俗文明ニ赴キ禮義ヲ重ニシ次第ニ粗暴ノ舊習ヲ脱セリ○第三世ジョージノ世ニ至テ國民産業ヲ脩ノ工作ヲ勉メ益富饒ヲ致シテ數年ノ間俄ニ全國ノ風ヲ一變シ人々皆門閥ヲ貴クノ政ヲ嫌テ自カラ不羈獨立ノ意ヲ生シ議事院ニテ國政ニ關ル者ノ内ニモ亦此黨ノ人ナリテ專ラ下民ヲ寬裕

ニシ門閥ニ關ラサルノ說ヲ唱ヘシカハ政府ノ命ヲ以テ此黨ノ長タルハルクスヲ議事院ヨリ黜ケタリコレヨリ國民不和ヲ起シ遂ニ一大事件ノ緒由トナレリ從來英國ニテ法ヲ寬ニシ門閥ヲ廢スルノ說ハ千六百五十年代ノ比ヨリ盛ニ行ハレテ其黨ノ人北亞米利加ノ領地ニ住居スル者多カリシニ此度本國ニテ同黨ノ黜ケラレタルヲ聞テ既ニ同情相憐ムノ意ヲ生シ之ニ加フルニ當時遇テ英國政府ヨリア米利加諸州ヘ加稅ヲ取ルノ命令ヲ下メセシカハ州民大ニ憤怒シ遂ニ千七百七十六

年兵ヲ擧テ本國ニ叛キ獨立ノ機又ヲ布告シタリ
 亞米利加ノ叛賊ハ其勢固ヨリ強盛ナルモ其威ヲ
 以テ之ヲ壓伏ス可カラサルニ非サレバ佛蘭西西
 班牙荷蘭ヨリ竊ニ其聲援ヲナシ且英ノ本國ニテ
 他ノ歐羅巴諸國ト戰爭起リ内外ノ事多端ニシ
 テ賊徒ヲ征服スルヲ能ハス千七百八十三年ニ至
 テ遂ニ和約ヲ結ビ亞米利加ノ獨立合衆國タルヲ
 許シタリ○亞米利加戰爭ノ代英國ノ宰相ロルト
 ノルハ專ヲ軍務ヲ司リテ大ニ人心ヲ失ヒ又同職
 ゼーラムス、クラマスハ從來亞米利加戰爭ノ代自キ

ノルハノ説ト相反シテ互ニ歡ヲ失ヒシカ戰爭ノ
 終ニ至テ再々相和シ議事院ノ官員中ニテ最モ權
 威ナル貴族輩ヲ引テ徒黨ヲ結ビ相共ニ謀テ王室
 ノ權ノ削キ議事院ノ盛大ニセント欲シ新令ヲ建
 テ印度地方ヲ議事院ノ支配ニ屬セントセシカハ
 王ハ固ヨリ此徒黨ヲ惡ミシテレハ此度新令ヲ
 出ロントセシテ宰相等ノ罪ニ歸シテ之ヲ黜ケテ
 ツヤム、ピット第二世シノ權臣シヨノ少子井ルレム、ピットヲ用
 テテ事ヲ任セリ然ル所議事院ノ下院ニテハ議論
 蜂起シ皆其命ニ服スルモノナク事情甚困難ナリ

シカビットハ既ニ王ノ委任ヲ受ケ且國內ノ人心
痛クノルヌ徒黨ヲ惡ミ又裁判局ニテモビットノ
説ニ左祖ヒシカ故ニ此機會ニ乘シテ遂ニ大事業
ヲ達シ議事院ヲ一掃シテ下院ノ異議ヲモ論破シ
新ニ其法ヲ改ルコトヲ得タリ此時ビットハ年二十四
歳ナリコレヨリ新宰相ノ威名國內ニ行ハル尚又
人オヲ擧テ各其所ヲ得ヒシト共ニ國事ヲ議シ之
ニ由テ從來不逞ノ輩モ次第ニ宰相ノ處置ヲ悅
ニ至リ任職ノ後十年ノ間國內周ク太平ノ德澤ヲ
被リサルハ宰相ビットノ力ナリ○千七百五十年ヨ

リ千七百七十年ノ間ニ英國内ニ大土エヲ起シテ
水道ヲ通レ運送ヲ便ニシ千七百六十七年ニハ
ルダリーウ氏紡績ノ機關ヲ發明シ千七百六十九
年ニハワット氏ノ發明ニテ蒸氣機關ヲ改正スル等
工作製造ノ法術一時ニ進歩シタルヲ以テ貿易商
賣ノ交、俄ニ繁昌シ第三世ジョージ即位ノ比ニ英國
一歳輸出品ノ高千五百萬ポンドナリシカ佛蘭西
騷亂ノ初ニ至テハ其高増シテ二千五百萬ポント
ニ上レリ但シ國債ハ亞米利加戰爭ノ故ヲ以テ昔
日ニ比スレハ一倍ヲ増セリ○拿破崙ノ騷亂ハ千

八百一二年アミルシノ和睦英佛ノヲ以テ中期トナ
 シ此和睦ノ前ハ英ノ海軍武威ヲ振テ佛蘭西荷蘭
 ノ海外所領ヲ奪却シタレ且陸兵ハ常ニ佛蘭西ニ
 破ラレ嘗テ勝利ナシ和睦ノ後ニ至テ宰相ビットノ
 處置皆其功ヲ奏セス然レ且亦斷然トシテ佛蘭西
 指揮ヲ受ルノ意ナシ進退コトニ窮テ他人ニ職
 ヲ讓リシレ且八百三年佛蘭西トノ和睦破ル
 ニ及テ再々職ニ歸リタリ○宰相ビット在職中ノ大
 功ハ阿爾蘭ヲ合併シタル一事ナリ阿爾蘭ハ昔年
 ヲリ英ノ所領タレ且本國政府ヨリ官吏ヲ遣テ其

土人ト政ヲ議シ自カヲ別政府ノ姿ヲ為シタリシ
 カ十七百九十八年其部内ニ騷乱起リタルヲ以テ
 宰相ビット其機ニ乘シ全ク之ヲ制伏シテ其別政府
 ヲ廢シ新ニ法ヲ定メ阿爾蘭ヨリ人物百名ヲ撰擧
 シテ下院ノ議事官トナシ亦上院ノ議事官ヲ撰
 擧スルノ例ヲ立タリ○再々佛蘭西トノ和睦破リ
 シトキ英國ハ奧地利魯西亞ニシリ國ト同盟シ佛
 ノ兵ト戰テ屢利ナシ千八百五年タラハルガハ岬
 西班牙ニ於テハ英ノ水師提督子ルツン佛蘭西西
 班牙ノ軍艦隊ヲ破滅シタレ且同年日耳曼ノオ

五洋事紀 卷之三
三六
ストルリツツ於テ奧魯ノ兵拿破崙ノ為ニ破ラレ
テヨリ同盟ノ兵勢遂ニ振ハス拿破崙ハ其兵ノ向
テ所天下ニ敵ナク意氣充滿シテ遂ニ又西班牙ヲ
伐テ之ニ勝テ國王及ヒ王族ヲ廢シ其弟ジョーゼフ
ヲ佛蘭西ヨリ迎立テ西班牙王トナシタリ蓋シ西
班牙王ハ佛蘭西ノ先王ト同族ニテボルボニ姓ナ
ルカ故ニ拿破崙ノ私心ヲ以テ之ヲ惡ハナリ西班
牙ノ王族廢滅セラレテヨリ其國民拿破崙ノ強暴
ヲ憤リ王室ヲ恢復セントテ兵ヲ擧テ佛蘭西ニ叛
キシカハ英國ハ之ヲ好機會トシ西班牙人ヲ煽動

敵躡シテ軍用金ヲ與ヘ兵ヲ貸シ相共ニ盟約シテ
佛蘭西ノ寇ヲ防キタレハ佛軍強盛ニシテ其鋒ニ
當ル可ラヌ次テ英國ノ將軍エルリントン同盟ノ
兵ヲ指揮スルニ及テ事體一變セラリ○エルリン
トニハ十七百六十九年阿爾蘭ニ生レ少年ノハヨ
リ佛蘭西ニ遊テ兵法ヲ學ヒ十七百八十七年任テ
英國歩兵隊ノ士官トナリ十七百九十七年東印度
ニ行テ其土人ト戦テ功アリ千八百五年英國ニ歸
リ連國及ヒ葡萄牙ノ為ニ戦テ勝利ヲ得各國ヨリ
非常ノ褒賞ヲ受ケ尚又此度ヒ西班牙及ヒ英國ノ

西洋事紀 卷之三

三六

將軍ト為テ同盟ノ兵ヲ指揮シテ佛蘭西ト戰テ屢
 之ヲ破リ千八百十三年ウットリヤノ一戰ニテ盡ク
 佛蘭西ノ兵ヲ西班牙ヨリ追ヒ出シタリコレヨリ
 先キ拿破崙四十五萬ノ兵ヲ卒ヒテ魯西亞ヲ攻メ
 シニ飢寒ノ為多ク兵卒ヲ失ヒ僅ニ殘兵ヲ集メテ
 佛蘭西ニ歸リコレヨリ各國ノ兵再ヒ蜂起シ力ヲ
 合ヒテ佛ヲ攻メ千八百十四年遂ニ拿破崙ノ位ヲ
 廢シテエルバ島ニ流シタリ翌年ノ春拿破崙エル
 島ヨリ歸テ再ヒ兵ヲ起シタルヲ以テ英國ノ將
 軍エハリントン同盟諸國ノ兵ヲ指揮シワットル

ロトニ於テ佛ノ兵ト戰テ大ニ之ニ克チ拿破崙ヲ
 捕テシントヘレナ島ニ流シ多年ノ騷亂初テ平定
 シタルハエハリントンノ武功ト云フヘシ是ニ於
 テ英國ハエハリントンヲ以テ全權使節ト為シ各
 國ノ使節據地利ノ首府ウヰルンナニ會同シテ和
 約ヲ結ビ各其侵地ヲ舊ニ復シタリ拿破崙ノ騷亂
 ニ於テ英國ハ唯其侵入ノ害ヲ被ラサルノミニテ
 戰爭ニ由テ得ル所ノモノハ甚少シ戰爭ノ間ニ押
 領シタル荷蘭ノ所領爪哇及ヒ其他ノ領地モ皆其
 舊主ヘ返シタリ

多年戦争ノ間英國內ヨリ官ニ收納スル貢税ノ高
甚多シ騷乱ノ終ニ至テハ一歳入税ノ高六千萬
シトニ近ク海陸ノ軍役ニ出ル者五十萬人許ナリ
毎歳右ノ税額ヲ收納スルノ外ニ國債ノ増シタル
六億ポンド余ニ上レリ國用ヲ費スル斯ノ如ク
莫太ナレトモ千八百三年ヨリ千八百十五年ノ間ハ
國內最モ富饒ヲ致セリ蓋シ其故ハ一ニハ國民皆
騷乱ノ禍ニ罹リ止ムヲ得マシテ工業ヲ勤ムル
ト一ニハ騷乱ノ以前ヨリ蒸氣機關等ノ學術俄ニ
進歩シテ製造ノ工業大ニ便利ヲ得タルニ由テ

ナリ
第三世 ジョージ 在位ノ終ニ至リ年既ニ老ヒテ事務
ニ倦ミ内外ノ政事ハ皆太子ニ委任セリ千八百二
十年死シテ太子立ツ之ヲ第四世 ジョージ トス 在位
十年ニシテ死シ其弟位ニ即ク之ヲ第四世 井ルレ
△トス 佛蘭西騷乱ノ後ハ歐羅巴州内都テ平穩ニ
シテ英國ニモ記スヘキ大事件ナシ千八百三十七
年第四世 井ルレ 死シテ子ナシ由テ第三世 ジョー
ジノ子 ケン ト侯ノ女子 フレクト リヤヲ立ツ即チ現
今ノ英國女王ナリ 阿片始ホト云フ書ニ英國女王
ノ妹船將ト爲テ攻入タルヲ支

那ニテ生捕リ云々ト記タリ然ルニテ且阿片ノ師
 ケント侯ノ一女子ニテ兄弟姉妹ナシ且阿片ノ師
 ハ十八百四十年ノ比ニテ女王ノ年ハ二十歳前後
 ナリ其妹ナラハ十七八歳ノ女子ニテ大軍ヲ帥ヒ
 支那ヲ攻メタル乎安説ノ甚シキモノナリ此外支那
 人ノ著シタル夷匪犯疆録等ノ書アリテ方今田舎
 ニ行ハルレハ盡ク虚説ノ小説○十七百年代ノ終
 ノリ學者謹ク之ニ感フ可ラス
 ヨリ英國人阿片ヲ支那ニ輸入シテ其國人ト密ニ
 賣買スルヲ支那ノ官吏憤怒シ英斷ヲ以テ此賣買
 ヲ禁セント欲シ英國ノ「カビタ」官名「エリット」ヲ捕ヘ
 切タシテ價三百萬ポンドノ阿片ヲ出サシメ盡ク
 之ヲ燒棄タリ事遂ニ戰爭ニ及ヒ支那人敗斃シテ
 英ノ為ニ廣東寧波及ヒ舟山島ヲ取ラレ次テ和議

ヲ乞ヒ香港ヲ割テ英ニ與ヘ五港ヲ開キ又英國ノ
 商賣品ヲ燒棄タル償金トシテ二千一百萬ドルヲ
 与テ三年賦ニ約束シテ英國へ與ヘタリコレヨリ
 英人ハ香港ヲ開テ貿易場トナシ今日ノ繁盛ニ至
 レリ

政治

英國ノ政治ハ年代ニ從テ變遷シ其時々ノ人智ト
 實驗トニ由テ體ヲ成セルモノニテ國初ノトキ預
 政治ノ本論ヲ立テ次テ之ヲ實地ニ施シタルニ非
 ラス唯知ラス識ラスシテ今日ニ至リ其景況ヲ見

ルニ嘗テ先見ノ識アリテ後世ヲ慮レルカ如シ殆
ント是レ人力ニ非ラス天ノ然ラシムル所ト云フ
ヘシ又道理ヲ以テ論スレハ斯ク自然ニ任シテ人
意ヲ交ヘサル政治ニ於テハ必ス乱雜ノ事アル可
キニ却テ然ラサルハ識者モ辨解スルヲ能ハス○
其政體、血統ノ君主、國內ニ號令スルノ權アルニ別
ニ法律アリテ君主ノ權ヲ抑制ス此法律ハ三局ヨ
リ出ルモノナリ即チ三局トハ王室ヲ第一局トシ
上院ヲ第二局トシ下院ヲ第三局トス三局ノ内國
王ノ位ヲ最上ト定ムレハ最上ノ權アルニ非ラス

上院下院ハ各別局ニ於テ事ヲ議シ説ヲ述ヘ國王
ヲ第一等ノ地位ニ置キ三局會同シテ政ヲ議ス所
謂議事院ナリ國政ニ關ハル事ハ先ツ其事ヲ起シ
タル局ニテ同議決定シ次テ又他局ノ議ヲ經テ異
論ナキ片之ヲ國王ニ奏シ其免許ヲ得テ初テ一定
ノ國法ト為ス即チ國王ノ免許ヲ得ル日ヲ以テ其
法ヲ施行スルノ日限トスルナリ又王室ヨリ議ヲ
起スルアリト雖モ上下兩院ニテ異論アレハ之ヲ
施行スルヲ得ス○上院ハ其議事官四百三十七人
第一玉族太子以下現今女王ノ贅婿ト第二不列顛ブリチン

ノ貴族第三代任貴族第四教化師以上四類ノ會集
 ナリ右ノ内王族及ヒ不列顛ノ貴族ハ世々其官位
 ヲ子孫ニ傳レル代任貴族ト唱ルモノハ蘇格蘭並
 ニ阿爾蘭ノ貴族ヨリ互ニ人物ヲ撰舉スルモノニ
 テ官位ヲ子孫ニ傳フルヲ得ヌ即チ蘇格蘭ヨリハ
 十六人ヲ出シ毎年新ニ撰舉ス阿爾蘭ヨリハ二十
 八人ヲ撰舉シテ終身職ニ在リ教化師ハ宗門ニ係
 ルモノニテ英倫及ヒ阿爾蘭ノ合衆寺院ヨリ出ツ
 英倫ヨリ出ルモノハ總人數ノ内四人ヲ除キ他ハ
 皆終身官位ニ居リ阿爾蘭ヨリ出ルモノハ毎年四

人ツ、順番ヲ以テ議事ニ參ルナリ○上院ノ長官
 フ「カンセロ」ト云フ國璽ヲ預ル且上院ハ國政ヲ
 議スルノ外ニ刑獄ヲ司ルノ權アリテ國中最大ノ
 裁判ハ此局ニ止ル○下院ノ議事官ハ國民ノ撰舉
 スルモノニテ在職七年毎ニ交代スル法ナレバ尋
 常七年ヨリ短キヲ例トス議事官ノ數六百五十八
 人アリ國內諸方ヨリ撰舉スル員數ノ法、次ノ如シ
 即チ英倫四十郡ヨリ百四十四人大學校二所ヨリ
 四人百八十六都府ヨリ三百二十三人ヲ撰舉シ合
 テ四百七十一人ナリヲ「イレ」ト云フ十二郡ヨリ十五人

五十七都府ヨリ十四人ヲ撰舉シ合テ二十九人ナ
 リ蘇格蘭三十三郡ヨリ三十人七十六都府ヨリ二
 十三人ヲ撰舉シ合テ五十三人ナリ阿爾蘭三十二
 郡ヨリ六十四人大學校一所ヨリ二人三十三都府
 ヨリ三十九人ヲ撰舉シ合テ百五人ナリ○下院ノ
 長官ヲ「スピークル」ト云フ此長官ハ毎年議事院ヲ
 開クトキ同局ノ議事官中ヨリ互ニ撰舉スルモノ
 ナリ上院下院共ニ國政ニ關スルハ同様ナレトモ下
 院ハ錢穀手形ノ「」ヲ議論スルノ特權アリ此特權
 ハ上院ノ羨ム所ナレトモ決シテ之ヲ他ニ許サズ總

テ金錢ノ「」ハ下院ニテ一定スレハ上院ヨリ之ヲ
 變スルヲ得ス○政府ノ號令ハ國王ヨリ出ルニ非
 ラス王室ヨリ出ルモノト視做セリ王室ノ大臣十
 四名アリ其内最モ權威アリモノハ第一錢貨出納
 ノ權ヲ執ル宰相ニテ即チ大閣老ナリ第二賦稅事
 務宰相第三刑法事務宰相即チ上院ノ第四内國事
 務宰相第五外國事務宰相第六海外所領事務宰相
 此外ノ大臣ハ王室ニ定位ナクシテ參議スルモノ
 ナリ海陸軍ノ事務ヲ司ル○右ノ如ク律ヲ定メ國
 内治乱ノ責ニ任スルモノハ國王ニ非ラスシテ事

務宰相ナリ故ニ宰相タルモノ議事院及ニ國民ノ
 信ヲ失ヘハ事柄ノ是非ヲ論ヒスニテ其宰相ノ職
 ノ免シ他人之ニ代テ其職ニ任シ國ノ爭端ヲモ開
 クヘキ難事ヲ平和ニテ痕跡ヲ殘スルナリ故ニ其
 政治ノ景況恰モ精巧ナル器械ノ如ク一體ノ内自
 カラ調和ノ妙機アリ若シ外ヨリ強暴ヲ以テ之ヲ
 壓スル歟或ハ内ヨリ互ニ不和ヲ生シテ離散スル
 等ノ事ナクハ此政治ハ天地ト共ニ永久スヘシ
 ○英國ニ於テハ政府ヨリ人ヲ教育スルノ法律ヲ
 建スルトク多クハ宗門ノ社中ニテ學校ヲ設ケ國

中人々ノ意ニ任シテ其入用ヲ出サシムルニ集
 ル所ノ金高甚多シ小學校ノ如キハ大概皆此法ニ
 由テ設ルモノニテ凡ソ少年ノ教育スルニ金ヲ費
 スルノ多キハ世界第一ト云フ可シ但シ政府ヨリ
 ノ取締リヲキテ以テ或ハ此金ヲ用ルニ趣意ヲ失
 フトモアレハ政府ヨリ之ニ關係スルコトアラハ隨
 テ又弊害ヲ生ス可キカ故ニ其利害得失知ル可ラ
 サルナリ學校ニ備ヘタル積金ノ利息並ニ毎年國
 中ヨリ寄附スル所ノ金高ノ總計スル所ハ年々四
 十萬ポンドニ及フヘシ○右ノ小學校ハ專ラ上等

中等ノ人ヲ教ユル為ニ設ケタルモノナレド近來ハ又貧賤ノ子ヲ教育スル國ノ文明ヲ十分ニセシトテ益々學校ヲ設ケ中ニ就テ日曜學校ト唱フルモノアリ此學校ニテハ日曜日ノ夕毎ニ教授スルヲ以テ此名ヲ得タリ○千八百五十一年英倫及ニ
 一ノスノ人口一十七萬九千二百九十二人ニシテ尋常學校ノ生徒二百十四萬四千三百七十八人、日曜學校ノ生徒二百四十萬七千六百四十二人アリ故ニ之ヲ人口ノ數ニ比例スルニ尋常學校ノ生徒ハ人口ハ人三分六釐ト一人トノ如ク日曜學

校ノ生徒ハ人口七人四分五釐ト一人トノ如シ○學校ニテ人ヲ教育スルノ法ハ普魯士、荷蘭等ノ諸國ニ一等ヲ讓ルト云フモノモアレド其實ニ然ルヤ否ハ知ル可ラス但シ英人ノ學術工作ノ諸科ニ於テ他國人ニ超越スル所以ハ教育ノ行届タルニ非ラス唯其國律寬裕ニシテ人ヲ束縛セス人々ヲシテ其天稟ノ才力ヲ伸ヘシムルニ由テ然ルナリ
 海陸軍
 英國ノ廣大ナルニ準スレハ兵卒ノ數モ必ス多カラサルヲ得マ然ルニ國民ノ數ト兵卒ノ數トヲ割

合ニスレハ歐羅巴州中ニ於テ英國ノ常備兵最モ
 少シ千八百五十二年ノ記載ニ從ヘハ國王ノ親兵
 千三百騎ト歩兵五千二百人ヲ合テ兵數凡ソ十二
 萬九千六百二十五人之ニ大砲隊ノ兵一萬四千四
 百十人ヲ加テ總計十四萬四千零三十五人ナリ此
 内本國ニ在ルモハ僅ニ五萬千九百四十七人ニ
 シテ他ハ皆海外所領ノ地ニ備ヘリ又本國ノ兵ヲ
 二部ニ分テ三萬零三百五人ハ不列顛ニ備ヘ二萬
 千六百四十人ハ阿爾蘭ニ備ヘリ故ニ防禦ノ天陸
 軍ノ勢ハ遠ク海軍ニ及ハワルニシ又英國ハ四方

海岸ノ地ト雖モ天險ノ要害ノルニ非ラズ唯人力
 ヲ以テ防禦スヘキノ國ナリ往古北方ノ敵連國人
 手軍艦ヲ以テ急ニ其海岸ヲ襲ヒシニ地方廣遠防
 禦ノ力足ラスシテ敗衄ヲ取タルナリ是レ全ク
 要害ノ頼ムヘキモノナキニ由テナリ故ニ方今ト
 雖モ英國ニ於テ海軍ノ武威ヲ失ハ、海岸ヲ防禦
 スル能ハサルナリ昔日ノ如クナルヘシ千八百五十
 騎兵ノ士官五千八百七十九人ト大砲隊ノ士官刺刺
 大敵方九千二百九十人ト卒一萬六千六百五十人外
 人同營古士官並ニ七十卒一萬六千六百五十人外
 軍馬ノ數九千六百八十人ト卒一萬六千六百五十人外
 百六十四人ト卒一萬六千六百五十人外

英國ニテハ兵卒ヲ舉ルニ定法ナシ入々、意ニ任
 七軍役ヲ好ムモ、ヲ取テ兵卒トナス其給料ハ仕
 後ノ年數ト職業ノ異同トニ由テ多寡アリ即チ親
 兵ノ騎士ハ一日ノ給料一「シ」ルリング九「ベ」ン「シ」乃
 至ニ「シ」ルリング尋常ノ騎兵ハ一日「シ」ルリング四「ベ」
 ン「シ」親兵ノ歩卒ハ一日「シ」ルリング二「ベ」ン「シ」尋常ノ
 歩兵ハ一日「シ」ルリング一「ベ」ン「シ」ト定テ然レモ無
 事ノ日屯所ニ居ルハ食料ノ代トシテ六「ベ」ン「シ」
 ヲ引キ又衣服諸具モ官府ヨリ與フレモ其代トシ
 テ給料ノ内ヲ引クカ故ニ兵卒ノ手ニ受取ル高ハ

甚ク少シ但戰爭ニテ手疵ヲ蒙リタルモノ並ニ老
 年ニ及テ軍役ニ出ルヲ能ハサル者ニハ官府ヨリ
 扶助金ヲ與テ生涯ヲ終ラシム
 ○英國ノ海軍ハ往昔ヨリ熟練セル所ニテ國中第
 一ノ武備ナリ千七百零七年上院ノ議事官ヨリ女
 王「マ」リ「タ」ニ呈シタル上書中ニ云ク此國ヲ富強ニ
 為シテ榮名ヲ世ニ耀カス所以ハ海軍ヲ盛大ニシ
 テ貿易ヲ勉メ其守護ヲ為スニ由テナリ中故ニ陸
 下海軍ヲ以テ國中第一ノ事務トシ專ラ之ニ注意
 シ給ハン「ト」臣等ノ深ク懇願スル所ナリト此時ニ

於テモ上院ノ議事官ハ國內ノ人心ヲ察シテ上書
 シタルヲナレハ英人ノ海軍ニ意ヲ用ユルハ往昔
 ヲリ今日ニ至ルマテ同様ナルヲ知ルヘシ
 海軍ノ帆前船蒸氣船ノ數之ニ備ル大砲ノ數並ニ
 蒸氣機關ノ力ヲ馬ノ力ニ比例シタル數ヲ記ルス
 左ノ如シ但シ千八百五十年ノ書記ニ出ルモノ
 ナリ
 第一等ノ軍艦十九艘各大砲百二十挺百十九挺乃
 至百十挺ヲ備ヘ砲數合テ二千二百十六挺
 第二等第三等ノ軍艦七十六艘各大砲百四挺乃至

七十挺ヲ備ヘ砲數合テ六千九十六挺
 第四等第五等第六等ノ軍艦百二十六艘各大砲五
 十五挺乃至十八挺ヲ備ヘ砲數合テ四千八百七十
 三挺
 スル一ノ船七十九艘各大砲十八挺乃至八挺ヲ備
 ヘ砲數合テ九百八十六挺
 一ノ船十六艘各大砲六挺乃至三挺ヲ備ヘ砲數
 合テ七十八挺
 蒸氣一ノガット船二十二艘蒸氣力ノ總計一萬二千
 二百二十二馬力大砲ノ數合テ二百八十一挺

蒸氣ノルロト船四十二艘蒸氣力ノ總計一萬三千三百馬力大砲ノ數合テ二百五十一挺
 蒸氣ノルロト船三十八艘蒸氣力ノ總計六千七百四十八馬力大砲ノ數合テ百二十五挺
 蒸氣ノルロト船二艘蒸氣力ノ總計百二十馬力
 大砲ノ數合テ二十挺
 右ノ外番船ニ用ル第四等軍艦ノ蒸氣力總計三千八百馬力
 總計軍艦四百二十艘大砲一萬五千零二十六挺其
 内蒸氣船百十四艘蒸氣力合テ三萬六千八百八十馬

力但シ蒸氣飛脚船ハ此數ニ算入セズ
 航海ノ士官水夫二萬九千五百人水戰ノ士官兵卒一萬三千五百人總計四萬三千人
 海軍ノ總督ヲロルド、ハ、アドミラルト云ヒ海軍局ノ全權ヲ執リ士官ヲ命シ其褒貶黜陟ヲ為シ軍艦隊ノ法則ヲ定ル等ノ事務一切之ヲ司ル但シ海軍ノ大法ハ議事院ヨリ出ルナリ
 海軍士官トナルモノハ初メハ先ツ無後ニテ軍艦ニ乘リ次テ手傳士官トナリ手傳士官ノ職ヲ勤ムル一六年ニシテ年十九歳ニ至レハ吟味ノ上ニテ

下等士官トナリ次第ニ等級ヲ進ムヘシ是等ノ進
退ハ皆海軍局ノ評議ニテ定マルモノアリ又海軍
ニ入ル前ニボールドマウスノ海軍學校ニテ教授
ヲ受クルモノハ例外ノ等級ニ登ル可シ○水夫ハ
人々ノ意ニ任セテ仕役スレバ事變アリテ人數不
足スルキハ政府ノ威權ニテ強ヒテ海軍ノ水夫ヲ
取ルテモナリ爾後年々蒸氣船ノ數ヲ増シ千八百
七十七百餘艘
ナリト云フ

錢貨出納

歐羅巴諸國ニテ英國ノ租稅最モ多ク千八百五十

四年ニ至テハ一歲ノ入稅五千七百萬ポンドノ高
ニ上レリ然レモ英國ハ他國ヨリモ收歛シテ民ヲ
苦シムルニ非ラス唯其稅法宜キヲ得テ國民皆之
ニ堪ルニ由テ斯ク夥多シキ高ヲ收ルナリ他國ニ
於テハ或ハ其稅法公平ナラザルヲモアレモ英國
ニ於テハ然ラス貧富貴賤一樣ニ租稅ヲ收ルヲ趣
旨トセリ英人ノ活計ニ苦ム所以ハ租稅ノ苛酷ナ
ルニ非ラス衣食ノ高價ナルニ由テナリ然レモ衣
食ノ高價ナルハ決シテ惠フヘキニ非ラス却テ其
國ノ幸ト云フヘシ其故ハ衣食高價ニシテ活計ニ

苦ノハ人民止ムヲ得ヌシテ工業ヲ勤メ隨テハ新
 發明ノトモ有テ國益トナレハナリ○英國ニテ收
 稅ノ大趣意ハ人生必用ノ品物並ニ製造物ノ内質
 素ナル粗品ニハ稅ヲ輕クシ奢侈ニ屬スル品物並
 ニ人命ニ害アル品物酒烟草類ニハ稅ヲ重クス蓋シ
 奢侈ニ由テ藥品ヲ用ユル者ハ固ヨリ其高價ヲ拂
 得ハタノ理アリ又不幸ニシテ有害ノ物ヲ服用
 スルノ癩アル者ハ其物ノ高價ナルニ由テ止ムヲ
 得ハ自カテ服用ヲ禁スルヲアムヘキノ理ナリ○
 一歲ノ入稅三分ノ二ハ諸港ノ運上並ニ國內產物

ノ運上ヨリ收納ス千八百五十二年一歲出入ノ會
 計左ノ如シ

歲入

三千百十七萬七千五百十二ポンド

港運上

六百七十五萬一千三百四十四ポンド

國內產物並ニ官許ノ運上

六百九十二萬一千二百九十九ポンド

證印稅

三百五十五萬九千六百七十二ポンド

地稅家稅等

五百六十五萬二千七百七十ポント

家產稅

二百四十四萬二千三百二十七ポント

飛脚印

三十五萬八千二百六十五ポント

政府所有ノ土地山林ノ運上

八十九萬二千四百二十七ポント

諸運上

總計五千七百七十五萬五千五百七十ポント

百六十二年ノ會計ニハ歲入七千三百萬ポントニ余ニ上ルト云

歲出

二百六十三萬八千七百三十三ポント

港運上並ニ國內ノ諸運上ヲ取立ル雜費六十二

二千七百九十三萬四千五百三十三ポント

國債ノ利息及ヒ其元金ヲ返シタル高

百五十八萬四千六百六十七ポント

文官定式ノ入用即チ王族ノ雜費政官ノ給料議

事院ノ入用等但シ國王自用ノ費ハ三十八萬ポ

二百十萬零四千九十六^ポニ^ト

裁判局ノ入用

三十三萬二千四百六^ポニ^ト

外國局ノ入用

一千六百十三萬五千九百五^ポニ^ト

兵備ノ入用但シ本高ノ内陸軍ノ入用七百零一

萬八千六百六十四^ポニ^ト海軍ノ入用六百六十二

萬五千九百四十三^ポニ^ト大砲隊ノ入用二百四

十九萬七千七百九十八^ポニ^ト

百三十四萬一千五百九十九^ポニ^ト

飛脚場ノ入用

七十三萬一千三百九十九^ポニ^ト

土工ノ入用

七萬七千五百三十三^ポニ^ト

政府所有ノ土地山林ノ入用

十二萬五千二百八^ポニ^ト

貿易場貸藏ノ入用

二百二十二萬三千六百八十八^ポニ^ト

古ノ条々ニ載セサル諸雜費

總計五千五百二十二萬九千三百六十七^ポニ^ト

附録

○英國ノ海外ニアル所領ハ甚ク廣大ナリ其大概
 ヲ舉レハ北亞米利加北方ノ地即チカナダ西印度
 南北亞米利加ノ地喜望峰、澳大利ヤ及ヒ東印度是
 ニアル地方ヲ云
 ナリ世上一般ノ説ニ英國ハ海外所領ノ地廣キカ
 故ニ本國ノ富饒ヲ致シ兵力強盛ナリト云フモノ
 多シト雖モ其説當ラサルニ似タリ亞米利加州ヲ
 發見シテ人ヲ移シ喜望峰ヲ廻テ東印度ト貿易ス
 ルニ至テ其利益ヲ得ルノ洪大ナルハ獨リ英國ノ
 ミニ非ラス歐羅巴諸國皆同操ナリ海外ノ地ヲ開

拓シテ其人民次第ニ文明ニ赴キ自カラ別政府ヲ
 建ツヘキノ勢ニ至レルモノヲ尚^ホ其舊ニ依テ之ヲ
 屬地トナシ本國ヨリ支配スルト或ハ之ヲ免シテ
 獨立セシムルト何レ歟其本國ノ為ニ利益トナル
 ハキ哉未ク其得失ヲ定メ難シト雖モ恐クハ其獨
 立ヲ許スノ方利益アルヘシ北亞米利加及ヒ西印
 度ニ所領ノ地アレモ今日ニ至ルマテ此領地ヨリ
 一錢ヲ收納シテ英國ノ費用ニ供シタルヲナシ加
 之其土地ヲ守護スル為ニ多ク軍艦ヲ送り陸兵ヲ
 備ヘ其雜費ハ本國ヨリ出シテ領地ノ人民ハ却テ

西洋事情 卷之三
之ヲ知ルコトナシ故ニ海外ニ所領ノ地アルトモ本
國ノ利益トスル所ハ唯之ト往來シテ貿易スルノ
一事ノミ然レモ海外ノ領地ト貿易スルハ外國ニ
行テ貿易スルニ異ナルコトナシ凡ソ他人ト貿易ス
ルニ於テ天然ノ理ニ從ヒ双方ノ利益トナルニ非
サレハ其本國ノ為筋ト云フ可ラス若シ天然ノ理
ニ從テ双方ノ利ヲ謀ルルハ所領ノ地ヲシテ獨立
國トナラシメハ其利愈大ナルヘシ其實證ヲ舉レ
ハ亞米利加合衆國ノ獨立シテヨリ以來英人常ニ
此國ニ往來シテ双方ノ交際益繁盛シ貿易ノ利愈

大ナリ又北亞米利加ノカナダハ英國有名ノ領地
ナレモ此領地ニ行テ貿易スルニ或ハ其土人ノ好
マサル所ヲ犯スニ由テ時々難事ヲ生スルコトアリ
且此地ヨリ輸出スルモノ一品ニテモ他國ヨリモ
便利ニシテ價ノ廉ナルモノナシ海外ノ領地ト強
テ貿易スルトモ固ヨリ害有テ益ナク且獨立ヲ欲
スルモノヲ壓伏シテ屬地トナシ置カシニハ本國
ノ入費甚ク大ナリ方今英國ニテカナダノ地方ヲ
失ハサル所以ハ唯兵力ヲ以テ其土人ヲ鎮靜スル
ニ由テナリ此大兵ヲ備フルノ費用一年百五十萬

利ントニ下ラス然ルニ其地ヨリ得ル所ノ利益ハ
 費ス所ノ高ヲ償フニ足ラス且識者ノ説ニカナダ
 ハ早晚獨立國ト為ル歟又ハ亞米利加合衆國ノ圖
 版ニ入ルハシト云ヘリ○又西印度ノ領地ニハ多
 ク砂糖ヲ産シ之ヲ英國ニ輸入シテ其運上ノ高甚
 大ナリト云ヘルモノアレバカナダニモ茶烟草ヲ
 産シテ之ヲ英國ニ輸入シ運上ヲ納ルヘハ西印度
 ノ砂糖ニ異ナルナシ且西印度ニ砂糖ヲ産スト
 雖其品物ヲ輸送スル者ハ英ノ商人ナレバ故ニ
 英國政府ハ其國人ヨリ稅ヲ取ルナリ加之西印度

諸島ノ砂糖ハ「キューバ」西印度ニ領地「ブラジル」南亞米
 立國ヨリ輸入スルモノニ比スレハ其價却テ高キ

カ故ニ此砂糖ヲ用ユルハ本國ノ損亡ト云フヘシ
 ○右ノ次第ニ付キ英國ノ盛大ナルハ其領地ノ廣

キ故ナリト思フハ大ナル誤解ナリ海外ノ領地ニ
 行テ貿易スルハ他ノ獨立國ト貿易スルノ便利ナ

ルニ如カス且所領ノ地ハ世界中諸處ニ散在シテ
 本國ヨリノ距離甚ク遠キカ故ニ戰爭ノ兵ハ敵兵

ノ襲撃ヲ受ケ易ク之ヲ守護スルニハ多少ノ工夫
 ヲ費シ軍用ヲ失ハサル可ラス反覆熟考スレハ海

西洋事情 卷之三

外ノ所領ハ本國ノ勢ヲ弱クスルモノト云テ可ナ
 リ英國ノ富強文明ニシテ他ニ擢ツル所以ハ其地
 理ノ便利ニシテ產物ノ多キト人才ノ多クシテ政
 治ノ公正ナルトニ由テナリ既ニ地理ノ辨ヲ得又
 政治ノ公正ナルアラハ海外ノ領地ヲ失フト雖モ
 毫モ患フルニ足ラサルナリ○東印度ノ地方ハ他
 ノ領地ト異ナリ屬國ノ如キモイニテ時々英國ハ
 貢稅ヲ納ルルアリ然レモ此貢稅モ世人ノ思フ如
 ク莫太ノ高ニハ非ラヌ之ヲ年々平均スレハ此細
 ノモノナリ○マルタ島 地中海 ジブラルタル 地中海

岸ノ北ノ如キハ軍艦商船ヲ寄セ戰爭ノ片ハ兵糧ヲ
 貯ヘ武器ヲ置キ此地ヨリ兵ヲ出シテ敵國ニ向フ
 可キカ故ニ緊要ノ領地ト云フヘシ
 海外ノ地ヲ領シテ本國ノ利益トナル所ハ過多ノ
 人民ヲ其地ニ移シ人々ヲシテ天稟ノ才力ヲ伸ヘ
 産業ヲ營ムヲ得セシムルニアルナリ毎年英國ヨ
 リ海外ノ地ヘ移住スルモノ甚ク夥多シ殊ニ亞米
 利加合衆國ハ元ト英國ノ領地ニテ言語同ク道程
 近ク氣候平和ニ且其國ニ移テ土地ヲ得ルル容易
 ナルカ故ニ英人ノコトニ居テ移スモノ最モ多シ

千八百二十五年ヨリ千八百四十九年ニ至ルマテ
二十五年ノ間ニ英人ノ海外ニ移住シタル者ノ數
左ノ如シ

北亞米利加ニ在ル英國所領ノ地ニ移リタルモノ

八十萬零八千七百四十人

亞米利加合衆國ニ移リタルモノ

百二十六萬零二百四十七人

澳大利亞ニ移リタルモノ

十八萬五千三百八十六人

右ノ外諸方ニ在ル英領ニ移リタルモノ

三萬零八百十一人

總計英國ヨリ出タルモノノ二百二十八萬五千百八
十四人ナリ

福澤氏藏梓

西洋事情 初編三冊刻成

同 二集 三集 近刻

華英通語 全一冊 刻成

福澤氏藏



京都 出雲寺文次郎

書 大坂 伊丹屋善兵衛

尾陽 永樂屋東四郎

肆 東都 出雲寺萬次郎

岡田屋嘉七





2-21

著作